

## 1960年代から現在にかけてのアイドルの衣装と色彩調査

人間の目から入る視覚情報のうち、80%以上が「色の情報」であると言われており、色はあらゆる意味で人に効果を与える。色彩は人々の心理面、生理面に影響を与えやすいので、色の使い方次第でそれをうまくコントロールできる。つまり、色をうまく使えば、見る人の潜在意識に働きかけて何らかの感情を引き出すことができるのである。故に、人気稼業でイメージが大事なアイドルたちにとって、その日の衣装の色や自身のイメージカラーは、人々から自身をどう見せたいか、どのような方針で売っているのかを簡単に表す、手抜きのできない非常に重要なものであると言えるのである。

### 時代を彩ったアイドルたち

今回、1960年代から2010年代にかけてブレイクした女性アイドルを、アイドル班の調査した資料を元に年代別にし、そのステージ衣装、見た目や服のタイプをまとめた。それらを参考に論じていく。

まず、1960年代である。1960年代は、昭和を代表する歌姫・美空ひばりが活躍した時代である。美空ひばり、江利ちえみ、雪村いづみと3人併せて、「3人娘」と呼ばれていた。3人娘のカラーはそれぞれ違っており、美空ひばりは赤や黒（その中でも赤い衣装が多かった）であるのに対し、江利ちえみはエメラルドグリーンやピンクやパープル、雪村いづみは白いものが多かったようである。衣装は原色のドレスが多く、髪は後ろでまとめていることが多い。上品なイメージの人が多かったようである。



続いて1970年代は、キャンディーズやピンクレディー、山口百恵を中心とし

た時代である。キャンディーズは3人組、ピンクレディーは2人組で似ているように思うが、衣装を比べると、キャンディーズは白や赤、緑の、バレエの衣装のようにふんわりとしたミニ丈のワンピースが多いのに対し、ピンクレディーはピンクや銀色、黒にラメが入った生地で、身体の線が出るぴったりとした衣装が多かったようだ。キャンディーズはかわいらしいイメージ、ピンクレディーはセクシー系のイメージである。そして山口百恵は、クールな見た目であるが、黒や赤のドレス、そしてピッタリした衣装に至るまで幅広く着ており、そこから彼女の人気や実力の程が覗えるというものである。しかし、スカートは長めのものが多く、セクシー路線ではなかったようだ。



そして1980年代。松田聖子を筆頭に、おニャン子クラブ、中森明菜、松本伊代、堀ちえみ、早見優、小泉今日子など、今なおテレビ番組や舞台上で活躍しているアイドルたちが数多くいる年代である。その中でも松田聖子の人気は抜きんでており、歌番組で花かごの中から登場したりと、彼女が歌うステージの装飾にも力を入れていたようだ。服はピンクや水色、パステルイエローといった淡い色合いのものが多く、清楚なイメージである。次に、今話題のAKB48の先駆けともいえるおニャン子クラブの衣装は、赤のチェックやストライプ、チアリーディング、だぼだぼとしたシャツにジーンズなど、服のジャンルは違えど、人目をひくものである。ステージの背景にはライトが点滅していたりして、おニャン子クラブの歌う姿はパレードを彷彿とさせた。そして中森明菜は、シルバーや赤、黒など、強い色でセクシーな衣装が多い。歌の曲調もあるのだろうが、ステージではライトの光が交錯し、派手な衣装がいつそう際立っていた。松本伊代の衣装は黄色、ピンク、赤チェックなどで、服は制服に似た形のものが多かった。元気な可愛い女の子、といった風貌である。



次の1990年代はアイドル氷河期と言われており、今なおテレビに出ている者は少ない。その中でも宮沢りえと観月ありさが抜きん出ていると言える。宮沢りえは赤や紅の衣装が多く、観月ありさはカラフル、グレー、水色、白、黒、黄色、ピンクなど、幅広い色の衣装を着ていたようである。しかしこの二人も歌で大成したとは言えず、その容姿があったからこそ人気が出たように思う。

1980年代までのアイドルたちと2011年現在のアイドルの顔を比べると、顔のタイプが違うことに気が付く。時代と共に人々が好きな顔の風潮も移り変わっており、アイドルの顔はその当時の流行り顔を表していると言える。1980年代までのアイドルは、美空ひばりや山口百恵、松田聖子など、目がそこまで大きくない者も多くいる。そして体系は、女性らしくある程度丸みを帯びたものである。それに対して、2011年現在可愛いと言われていた顔や良しとされる体型は、佐々木希や北川景子を中心に、大きな目をし、鼻が高い顔に、これ以上痩せたら身体に悪いのではないかというくらい細い、スラッとした体型である。そしてその風潮が決定的に表れ出したのが、宮沢りえや観月ありさが活躍した時代ではないだろうか。



そして1990年代中盤。モーニング娘。と鈴木亜美がその代表である。モーニング娘。の衣装は、金、白、赤といった原色のものが多く、メンバー数も多いので、強く印象に残りやすい。タイトでセクシー、ヘソ出し衣装も多い。鈴木亜美も黒、白、赤、蛍光青、蛍光ピンクといった派手な色の衣装が多いが、セクシーというよりスタイリッシュといった印象である。



最後に2000年代であるが、2000年代は、ブレイクするしないに関わらず、今までとは一風変わったアイドルが数多くいる。AKB48、ももいろクローバー、アイドリング!!!、Perfume、そして韓流アイドルの少女時代やKARAである。今や飛ぶ鳥を落とす勢いと言われるほどのAKB48は「会いに行けるアイドル」として売り出された。そのステージ衣装は、制服（紺色系スカート、チェックのスカート、シャツ）、水着、下着など、人々の心をくすぐるものが多い。また、

人気メンバーであればあるほど過激な水着などのショットが多い傾向があるのも珍しいのではないだろうか。

現在好感度の高い髪型と言えれば圧倒的にロングヘアーである。美空ひばりから現代にかけて、アイドルの髪型というのは意外にショートが多い。また、前髪を分けたり髪をまとめたりして、おでこを出している者も多くいる。それはなぜかという、その方が各々の個性が出るからである。ショートヘアーでおでこが出る髪型にすることによって、その人物の輪郭や顔がよくわかるようになるのだ。しかしデメリットもある。輪郭や顔がよくわかるようになるということは、髪型や雰囲気でも可愛らしさをごまかすことができず、より自身のクオリティ勝負になり、似合う似合わないの差がロングに比べて激しいのである。その点で長い髪や前髪をおでこに垂らしていれば、雰囲気でも可愛いように見えるのだ。

例えばAKB48のメンバー一覧を見ると、パツン前髪のロングヘアーが圧倒的に多く、AKB48が端目から可愛く見えるのはその影響もあるのではないだろうか。しかしそれゆえに、選挙で上位メンバー以外はその個性を失くしてしまっているように思う。人の顔やそのタイプはそれぞれ違うが、AKB48は、みんなが同じタイプの可愛さになろうとしている、もしくは、型にはまった可愛さで自身の粗を目立たなくしようとしているように見える。AKB48は、美人揃いのアイドルグループというよりも、正統派な髪型をして正統派な衣装を着た女の子たちが集まって、可愛さを倍増させている、といった印象である。

AKB48によく似たグループでいまひとつ振るわないのは、アイドルリング!!!である。アイドルリング!!!の衣装は色が薄めで、いまひとつ印象に残らない。またはメンバーの衣装に統一感がなく、そのグループの『色』がない。その上、モーニング娘。の後藤真希や安部なつみ、AKB48の前田敦子のように、賛否両論あれどグループの『顔』となる存在がいないことも問題であると思われる。グループで個性を生かしたまま売れるというのはなかなか難しいようである。

次に最近話題の韓流アイドル・少女時代とKARA。両者はスタイル的には似ているように思われる。しかし、少女時代の衣装は、黄色、黒、白で、露出は多いが、細いからか性的ではなく、近未来的でタイトなイメージである。一方KARAは、黒、短パンにピッタリジーンズといった、少女時代より親しみやすい衣装である。現在の日本のアイドルは、性格や顔など、あらゆる面で自身の可愛さを売りにしていることが多く、所謂萌え系が多い。それに比べて韓流アイドルは、1990年代前半の鈴木亜美やモーニング娘。などのスタイリッシュな衣装やノリの良い曲調をどこことなく思い出させる。故に、萌え系アイドルたちがあまり好きではない人や、かっこいい女性が好きな人が、スタイリッシュな韓流アイドルに流れたのではないだろうか。



## グループの難しさ

モーニング娘。やAKB48、少女時代などのような多人数で構成されたグループは、人目を惹く。例えば1人では目立たない可愛らしさの女性でも、そのレベルの女性は何人も集まれば不思議と目を惹き、より可愛いと思えるようになる。少女時代でも、スタイルの良い女性は何人も集まってグループになっているのは圧巻である。しかし多人数では個々の長所を生かすことが難しく、むしろそれぞれの個性を尊重してしまうと統一感がとれにくい。そして統一感がとれていないと、人々の記憶に残りにくいのである。グループアイドルは、それぞれステージ衣装が皆同じような形である。キャンディーズやピンクレディー、おニャンこクラブやモーニング娘。AKB48などのステージ衣装は、スカートであったりショートパンツであったりと少々の違いはありつつも、ベースは同じ服を着ている。これは多人数で同じ服を着ることにより印象を強めるためと、似合う服と似合わない服の差が激しいので、グループの中でもさらに人を選ぶような服は着せることができないのだと思われる。それ故に、グループアイドルの衣装は原色であり色使いの激しくない衣装が多いのではないだろうか。

## 赤を着る意味

表を見ると、ほとんどのアイドルは、その売り出し方がどうであれ、1回は赤い衣装を着たことがある。つまり、赤はアイドルに欠かせない色のようなのである。赤は色彩の中でももっとも濃い色で、情熱やエネルギーを感じさせる。精神に刺激を与え、活動力や肉体的な力を表現する色だ。故に、人前にその姿

を見せ、歌ったり話をしたりすることで人々の元気のもとになるアイドルたちにはぴったりの色であると言えるだろう。

しかし、赤はいきすぎると怒りや反抗心に発展することがあり、たまに着るのならばまだしも、イメージカラーとして背負うにはそれなりに重い色ではある。赤をイメージカラーにするには、赤に見合った容姿や実力も兼ね備えていなければならないのだ。そう思って振り返ってみると、赤い衣装が多いアイドルには、ブレイクしたアイドルたちの中でも別格、という存在が多いように思う。

アイドルのステージは、大抵アイドル一人にスポットライトが集中しており、背景は暗めである。それは人々の目をそこに集中させるためであろう。人々の目をアイドルに集中させる。そしてより目を惹くためには、衣装はきちんとしたものでなければならない。原色を使えばさらに印象深くなり、雰囲気を作ることもできるだろう。しかし衣装の色は飽くまでアイドルを惹き立てるためのものであり、主役はアイドル自身なのである。服によって似合う似合わないの差が多少あれど、アイドルは、その色に着られて自分の持ち味が生かせないようではいけないのだ。



同年代のアイドルたちを見ていると、ほとんどキャラやイメージが被っていないことがわかる。

キャラが被るというのはアイドルにとって致命的な事態であると言えるだろう。なぜなら、『どちらを使ってもかまわない=仕事はその分減ってしまう』。もしくは、キャラが被っているアイドル間で優劣ができてしまうからだ。優劣の基準は、ヒット曲を多く出しているだとか、見た目がより可愛いまたは美人であるだとか、はたまた所属している事務所の力関係などもあるだろう。しかし意図するしないに関わらず一度できてしまった優劣はなかなか崩すことができず、優勢だと思われる方ばかりに仕事の依頼が行き、結果キャラが被ってしまった他のアイドルたちは売れなくなり、いつの間にか消えてしまうのだ。

アイドルたちの衣装の色彩について述べてきたが、彼女らの衣装の色が重要

であると同時に、彼女ら自身も、自身のキャラや歌といったカラーを持ち、唯一無二に等しい存在にならなければならないと言える。そうしなければ、星の数ほどいる他のライバルたちにすぐに蹴落とされてしまう。芸能界は厳しいのである。

色の意味・効果 <http://www.reizan-fusui.jp/color-imi.html>

いろいろな色の意味

<http://www.geocities.co.jp/Hollywood-Miyuki/1175/meaningogclr.html>

(参考文献を書きだした紙がどこかにいってしまったので、探しておきます。)